

2024 年度事業計画

自 2024 年 10 月 1 日

至 2025 年 9 月 30 日

はじめに

2023 年 3 月に京都府向日市に開館した永守コレクションギャラリーは、ガイドツアーによる通常公開に加え、定期的な特別展の開催、他の博物館との連携や地域の多様な主体との連携協力による地域の活力向上に取り組み、2023 年 12 月には、創設一年に満たない施設では異例とも言える登録博物館（博物館法改正後、京都府下で登録博物館第 1 号）に認定された。

2024 年度は、完全予約制のガイドツアーの継続により、希少価値の高いアンティークオルゴールとその歴史及び文化の変遷をわかりやすく紹介することを基盤としつつ、引き続き定期的に在日スイス大使館、京都府、向日市をはじめ、メディア各社からの後援を得て特別展を開催する。また、京都府および向日市の文化・教育・観光行政との信頼関係を強化するほか、地域の幼稚園・小学校・中学校などの施設見学の受入れをさらに充実させることにより地域に根差した博物館の地位確立を目指すとともに、社会的認知度の向上を図る。

I. 永守コレクションギャラリーの運営

アンティークオルゴール、オートマタ、その他自動演奏装置などの収蔵品を適切な室内環境で管理・保存し、歴史的資料としての調査研究を行うと共に、ギャラリーでの展示を通じて、広く一般へ向けてコレクションを公開する。

1. 常設展示

開館日：毎週月・火・木・金（祝祭日、GW、お盆期間、年末年始を除く）

開館時間：10:00～16:00（完全予約制）

ギャラリーガイドツアー時間（各回 60 分）

◎10:30（10:30～11:30）

◎13:00（13:00～14:00）

◎15:00（15:00～16:00）

入館料：無料（ワークショップなど一部のイベントでは参加費を徴収）

2. 企画・特別展示

毎年、春休み、夏休み、冬休みの時期に企画・特別展示を行う。企画展では常設展とは異なった切り口や分類によるテーマ設定を行う事により、コレクションの魅力を再発見し、新たなファン層を獲得する事を目指す。また、企画展の期間は、教育機関の長

期休暇と重なる様に設定を行い、年代性別を問わず多くの来館者に、ワークショップや特別ガイドツアーなどの多様な体験の機会を提供し、コレクションに関する教育普及に努める。

3. 保守・整備および修復・修繕

半期毎に全ての永守コレクションのメンテナンス点検を実施する。(年間で2回実施) 点検時には状態に応じてランク付けを行い、不具合箇所を順次、修繕する。内部で修復が出来ない、コレクションについては外部専門家に修復業務委託を行う等して、可能な限り全コレクションの動態保存を目指す。今期の外部への発注としては、特に劣化損傷が著しく、緊急性の高い、オートマタの衣装(複数)の復元および、専門的技術が必要とされる自動演奏ピアノ1台の修復を計画する。

4. 研修

学芸業務については、文化庁等が主催する研修会へ参加(実地、オンライン)する事により、専門的知識を習得し、学芸員の資質向上を目指す。また、コレクションの操作方法の習熟、修復技術の向上については、内部勉強会(四半期ごとに外部専門家を講師として招聘)を実施し、プロフェッショナルの育成に努める。

5. 情報発信

永守文化記念財団および永守コレクションギャラリーのホームページや公式 SNS(インスタグラムなど)を運用し、適宜適切に情報の発信を行う。また、関係各所の協力の下、京阪神を中心とした美術館や公共施設などにてチラシの配架を行い、新たな顧客創出の機会を目指す。

6. 永守コレクションのアーカイブの作成および活用

世界有数のアンティークオルゴールコレクションである永守コレクションに関する資料を写真および動画の形で記録に残し、デジタルアーカイブとしてホームページ上で公開を行うと共に、図録等の印刷物や特別展等のイベント企画での活用を図り、コレクションの価値や魅力を広く世間に知らしめる活動を行う。

II. 「オルゴール記念館すわのね」での展示事業

2016年3月より行ってきた「オルゴール記念館すわのね」での共同展示を継続する。両館が連携し、共同展示や共同事業を展開する事により、最大限のPR効果を生み出し、オルゴールファン層の拡大を図る。

III. 資料の収集

オルゴールの分野において世界屈指のコレクションである、永守コレクションのより一層の充実を図る為、アンティークオルゴールおよびそれに関する資料を収集する。今期はドイツ・ポリフォン社の最上位機種であるミカドを購入し、適切なメンテナンスを行っ

た上で、一般公開を行う。また、永守コレクションへ加えるに相応しい、資料的価値の高い作品を継続的に収集できる体制を整える。

以上